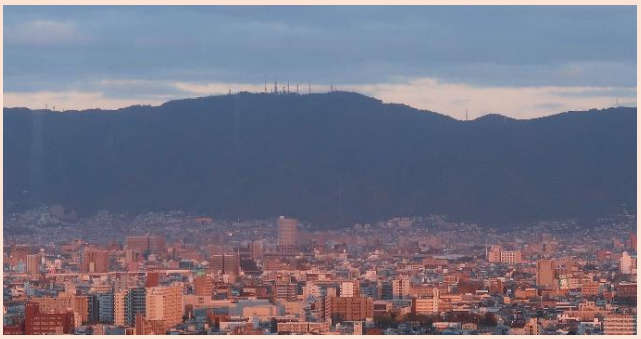
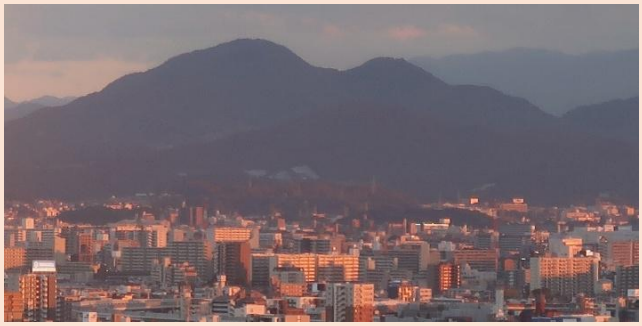
赤磐市はこのままでよいのか（Ⅱ）

3月の市長選・市議選が近くなりましたが、暮らしを委ねる代表を選ぶ4年に一度の大事な機会です。

先が読めない時代と言われますが、大地震や異常気象、新型コロナ感染に加えて、コンピュータによる脆弱な社会基盤ネットワーク、未熟なAIが私たちの日常生活を支配するようになってきたからでしょう。難題であっても曲折に耐える“**人づくり・まちづくり**”が必要です。ではこの赤磐市をどうすれば良いのか、なぜこんなことを言うのか、以下偏見を承知で述べたいと思います。忌憚なきご批判、ご意見をいただければ幸いです。



生駒山夕暮



二上山

2年ぶりに上阪した12月初め、あべのハルカスからの夕景

教育の課題　公立小・中学校の教育が文科省のカリキュラムに縛られて教科書一辺倒なのが現状です。国が「地方創生」を掲げるならば、夫々の地方・地域に応じた教育が必要なのに全国一律でよいはずがありません。

教育方針：かつて山陽北小学校で校区住民奉仕の課外学習かがやきクラブが発足したとき、私は「**環境学習**」で応募しましたが学校側が受容れませんでした、市教委にも話しましたが、カリキュラムにないから無理と。近くの鎮守の森や果樹園の縁を月1回少人数グループで地図を辿り歩いて観察する提案でした。ドイツでは「森の幼稚園」が定着しています。学校周辺に豊かな自然があるのに、見学はごみ処理施設や製造工場などに限られているようです。教室で得る学力に拘っていては、自然環境の中でこそ得られる人間形成がおろそかになってしまいます。

大塚愛県議の「いっぽ通信」第33号によれば、岡山県教委は「**夢育**」*やPBL（課題解決型学習）に注力しています。なぜ赤磐市教委はそれを無視するのか問うてみたいと思っています。

＊夢育：夢を育み、挑戦していく経験を通じて、自分を高める力を養う岡山独自の教育方針

読書の習慣：子ども達はディスプレイを見て学習と遊びに多くの時間を費やすのが日常と思いますが、これでいいのでしょうか。学年に応じた昔話や小説を副読本に、生徒が選べるようにしてはと思います。推奨の一例：①「**君たちはどう生きるか**」吉野源三郎著を中学生に、青少年向けの人生読本であり、複雑で厳しい世を生きて行く心の支えに　②「**ファーブル昆虫記**」科学的な観察・思考の入門書として好適

県立図書館の日本一は衆知ですが、身近な当市立**中央図書館**も蔵書と運営が気に入りです。広報あかいわで新着書や書庫に眠るおすすめ本、解説などを年１回でも特集されては如何。（大人の目覚ましのために）　目下 照明設備の LED 化工事で休館中ですが、後日に向けて次の２件を提案します。南側にカフェを増築して座談スペースを、西側の土盛りを水溜りと一体化してラクウショウ数株を植える。西日が強いので午後はブラインドを降ろしていますが、高木に育てば緑のカーテンになります。正面入口前の植栽と相俟って、市役所前に相応しい姿を期待します。

ごみ処理　大阪・関西万博の日本館で「微生物によるごみ処理」展示をニュースで知りました。世界中が注目する画期的なものかもしれませんが、果たしてどうでしょうか。微生物と言っても様々で安全が保証されなければ実用になりません。麹のような自然のものであればと願っています。

それにしても、Dr.矯 学真が提唱する**生ごみの燻溜処理**が注目されないのはなぜか、連続運転が難しいならバッチ処理の小型施設でもよい、休耕田に１トン/日 程度の実証プラントと周辺に自然農法の野菜畑を提案します。

私がごみ処理にこだわるのは、市の財政と市民生活 更には地球環境に関わるからです。落葉、剪定屑、除草屑など堆肥にすべきを 可燃ごみとして プラスチックなど雑多なごみと一緒に燃やす現状は問題です。設備ありきでなく、**ごみ減量**をキャンペーンすれば現状の２炉稼働を１炉にできる筈です。地元に処分場が出来ても長持ちさせるための課題です。

先稿**赤磐市はこのままでよいのか**は上記ごみ処理のほかはそのままですから再読いただければ幸いです。　（終）

2025 年２月９日

中西 卓　　桜が丘西８－25－8
Tel：086-608-1321　E mail：naktak@sky.megaegg.ne.jp